

様式(細則 5-2)

令和5年6月12日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 芦谷 英夫

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため（視察 研修）を（実施 受講）したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 日 令和5年6月6日（火）
- 2、研修内容 講演「観光最前線～これからの観光地域づくりと経営戦略～」
- 3、研 修 先 益田市（三好家）
- 4、調査経費 交通費（ガソリン代） 1,720円
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



講演「観光最前線～これからの観光地域づくりと経営戦略～」

令和5年6月12日

1 日 時 令和5年6月6日（火）13時30分～16時30分

2 場 所 益田市（三好家）

3 内 容 講演「観光最前線～これからの観光地域づくりと経営戦略～」

（株）シャンテ代表取締役 安達 精治

セッション・意見交換会 安達 精治、誘客マネジメント 加藤 学

4 概 要

- ① （安達氏 矢掛町で観光事業を实践）矢掛町は、江戸時代に旧山陽道の宿場町として栄えた歴史を持ち、現在でも町並みには往時の建物が多く残る。町を流れる清流小田川がもたらす自然に恵まれ、宿場町、本陣のあった旧家住宅、温泉、フルーツ園、歴史公園、美術館、ホテル公園などを観光資源として打ち出している。
- ② 観光による持続可能なまちづくり、雇用の場をつくる、地域が幸せになる、観光ではなく地域と交流する旅をつくる、関係人口が重要となり、受け継がれているもの古きよきもの、地元の人が見落としているものこそ価値がある。
- ③ 旅先での出会いや交流などが重要で、風情、歴史、人情、心のふるさと、ほのぼの、日本らしさなどに磨きをかけ、舞台に上げ打ち出すことが重要であり、外国人が魅力を感じるのは、日本のビューティフルは「景色」ではなく「心」である。
- ④ （加藤）日本は欧米から見れば世界一の人気があり、1兆ドルのインバウンド市場は、1・3兆ドル（156兆円）まで伸び、そのため外国人とのコミュニケーション力、SNSによる情報発信力が重要となる。
- ⑤ 観光にも地域づくりにも、ハートワーク、ネットワーク、フットワークが重要であり、地域資源にどう高付加価値をもたらすか、人をどう育てるかつくるか、自分たちの地域に自信を持ち誇りを持つことである。

5 所 感

- ① 石見神楽、石州半紙、特産品、地域資源などいわば浜田のお宝、人材などを活用した外貨獲得の仕組み、地元消費の拡大など地域経済循環の仕組み、地域経済の底上げを図る必要がある。
- ② どんちっち三魚など水産資源の高付加価値化を打ち出しており、これにさらに磨きをかけ、貿易港では外国船の入港、クルーズ船の誘致など浜田市ならではの振興に取り組む必要がある。
- ③ 市の観光振興は、石見観光振興協議会、石見神楽広域連絡協議会でやるとしているが、アクアス、石見銀山と浜田の観光施設、萩・石見空港、益田、津和野などとの連携体制、具体的な周遊の仕組みがなく、市としてそれを進める本物の体制づくりが急務である。
- ④ DMO観光地域づくりの体制がなく、インバウンドを取り込む観点から、外国人など外部の人の目の意識、若い人、浜田市民が意識していない眠れる観光資源の発掘、観光資源の磨き上げ、観光地域づくりが必要である。
- ⑤ 市内には、農林水産業、豊かな自然、白砂青松の海岸、県内に3か所のみ国府、中世益田氏に連なる国人領主の史跡、石見神楽、広島市の北の玄関口、県西部拠点都市としての都市機能などを、地域振興の柱に据えた推進が必要である。 一以上一